

CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニュースレター

No.26

2018年4月

Center for
International Research on the
Japanese Economy (CIRJE)
Graduate School of Economics,
Faculty of Economics
The University of Tokyo

研究会開催報告

当センターでは、毎週行われるワークショップから国際コンファレンスまで、様々な研究会が開催されています。今号ではその中から、2017年6月に開催された会議について、主催教員よりご報告申し上げます。

The 26th NBER-TCER-CEPR Conference on "Corporate Governance"

日時：2017年6月22日

場所：大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール)

福田慎一



日本経済国際共同研究センター(CIRJE)は、東京大学金融教育研究センター(CARF)および株式会社日本政策投資銀行のサポートを得て、「The 26th NBER-TCER-CEPR Conference on "Corporate Governance" (TRIO コンファレンス)」を開催しました。TRIO コンファレンスは、米国 National Bureau of Economic Research (NBER)、欧州 Centre for Economic Policy Research (CEPR)、および公益財団法人東京経済研究センター(TCER)が共催する形で、米国および欧州における著名な経済学研究者を毎年東京に招いて現代社会のホットイシューを報告・討論するコンファレンス・シリーズで、今回が第26回となります。今回のテーマは「コーポレート・ガバナンス」で、関連する諸問題を多角的に議論しました。日本側からは、宮島英昭(早稲田大学)、井上光太郎(東京工業大学)、福田慎一(東京大学)、植田健一(東京大学)、小倉義明(早稲田大学)、Heather A. Montgomery(国際基督教大学)らが報告者ないし討論者として参加しました。また、海外からの参加者には、Franklin Allen(Imperial College London)、Randall Morck(University of Alberta)、Benjamin E. Hermalin(University of California, Berkeley)、Yupana Wiwattanakantang(National University of Singapore)、Masao Nakamura(University of British Columbia)、Re-Jin Guo(University of Illinois at Chicago)、伊藤隆敏(Columbia University)、星岳雄(Stanford University)らいずれもこの分野でのトップクラスの研究者が含まれ、大変意義深い議論が展開されました。近年、企業統治のあり方が改めて問われています。特に、それが十分に機能しないことによって、企業の資金余剰が膨らみ、本来は成長資金に使われるべきお金が、収益性の低い安全資産で退蔵されているという指摘もあります。このため、企業統治のあり方を本格的に検証することは、成長戦略を考える上で重要な政策テーマです。これからの日本企業では、様々なステークホルダーに目配りしつつ、経営者を規律付けることで企業価値を高める思い切った取り組みが求められているといえます。シュンペーターが指摘したように、企業家精神の発揮は経済成長を推進する重要な力です。ただ、企業統治の強化によって、企業家精神を本当に高めることができるかどうかは必ずしも明らかではありません。TRIO コンファレンスでは、国内外から参加した6名のスピーカーがコーポレート・ガバナンスに関する研究報告を行い、指定討論者やオーディエンスとの間で活発な討論が交わされました。報告論文は、レフェリーによる審査を経て、国際学術誌 *Journal of the Japanese and International Economies* に2018年3月に刊行されました。



会議の様

CIRJE Newsletter

目次

研究会開催報告

—The 26th NBER-TCER-CEPR
Conference on
"Corporate Governance"—

客員教授・客員准教授
紹介

短期客員研究者紹介

CIRJE
ディスカッション
ペーパーシリーズ

客員スタッフ

スタッフ

客員教授・客員准教授紹介

当センターには、研究者を受け入れるための複数のポジションがあり、年間を通じて多彩な研究者の皆様にご来訪頂いております。今回は、2017年度にお越し頂いた客員教授・准教授の皆様へ、滞在時の研究についてお聞きしました。

客員教授

Faculty of Management, Tel Aviv University
Dov Eliahu Samet
(2017.4.25 - 6.4)



滞在中、下記のような対話の特徴づけに関する問題について研究しました。

アリスとボブの二人が、黒馬があるレースに勝つ可能性の値を予想していると考えてみましょう。アリスは30%と考えましたが、ボブは60%であると考えました。それぞれ、お互いがどのように考えているかを知りません。今、これについての互いの考えを述べ合ったと仮定しましょう。アリスは、ボブの考えを聞くことで、何かを学び、結果として彼女の予想を改めるかもしれません。今、彼女は黒馬がレースに勝つ可能性は25%だと考えています。同様にボブは彼の考えを改め、今、黒馬がレースに勝つ可能性は70%となりました。彼らは互いに、黒馬がレースに勝つ可能性に関する新たな予想を述べ合い、お互いの考えをさらに改めました。アリスとボブは、対話の後、彼らの考えを収束することはできるのでしょうか？それよりもむしろまともならず彼らは発散することになるのでしょうか？我々の研究で示したことは以下の通りです。もしアリスとボブが間違った予想を持って始めた場合は、アリスとボブはどんな予想を言い合う事もあり得、特に、正しい数値に到達する可能性はゼロであることを示しました。一方で、彼らの予想が誤ったものでないとするならば、彼ら是对話の中で「振動する」ことはなく、それを彼らの予想とします。

名古屋大学経済学部・経済学研究科
工藤教孝
(2017.11.1 - 2018.3.31)



CIRJE では2018年11月から2018年3月までお世話になりました。滞在中は本務校やその他の義務から少し離れた環境の中、執筆中の論文の仕上げ作業に専念したり、あるいは受け入れ教員の平野先生との新しい研究プロジェクト立案を行ったりと、研究者としての原点に戻ることでできた素晴らしい時間となりました。近くのカフェに立ち寄ると皆が勉強や研究をしている東京大学とその周辺の雰囲気は少しでも名古屋に持ち帰りしたいと思います。

私が滞在中に仕上げ作業を行った論文では、サーチ・マッチング理論に企業規模の概念を導入したモデルを利用し、景気変動上で企業が雇用量と労働時間をどのように使い分けるのかについて研究しました。日本の労働市場に合うようにモデルのパラメータを設定すると、日本の労働市場の変動、特に雇用量と労働時間の変動規模をかなりの精度で再現できることが分かりました。

受け入れ教員の平野先生とは、資産価格バブルにおけるバブル経路に関する新しいモデル構築について意見交換を行い、さらには昨今の日本の物価の推移、特に貨幣供給が必ずしも物価上昇を引き起こさない状況の理解の一助になる理論的枠組みについて議論を行いました。

School of Economics, Yonsei University
Doowon Lee
(2017.10.1 - 11.15)



2017年10月1日から11月15日にCIRJEへ客員教授として滞在いたしました。滞在中、講義、研究やセミナーなどの学術的な活動を行いました。講義の点では、韓国経済発展に関する学生向けの特別講義をいたしました。学生は熱心に講義に耳を傾け、学生達から提起された、理解のある質問を楽しみました。実際に、学生たちは予想を上回る質問を提起し、予定より15-20分延長して講義を終えました。もう一つの特別講義は、一般社団法人日本経済団体連合会により運営されたフォーラムの中で行いました。そのフォーラムでは、韓国文在寅大統領の経済政策について、また、アベノミクスとの比較を行う講義をいたしました。文大統領の経済政策はよく「所得主導型の経済成長戦略」と呼ばれますが、その主要な内容とその潜在的な問題について分析しました。この特別講義の準備のため、韓国と日本の現代の経済問題についての研究も行いました。もう一つの重要な活動は、日本政策投資銀行がホストをされたセミナーでした。私は「中所得国の罫(MIT)と中国」というテーマで発表を行いました。MITに関する主だった議論を再考した後、中国に対する主な影響へ適用しました。発表の中盤からその後の夕食の席まで、白熱した議論を満喫しました。

この経験を通して、学術活動のみならず、教員、職員、学生や、日本人の友人達との文化的、個人的な交流も楽しみました。この忘れがたい機会を頂いたことに感謝申し上げます。

客員准教授

一橋大学経済研究所
陣内 了
(2017.4.1 - 9.30)



CIRJE では大変に有意義な滞在をさせて頂きました。素晴らしい機会を与えて頂き、心から感謝を申し上げます。

滞在中は、東京大学の研究者、大学院生、学部生と積極的に交流することが出来ました。また、東京大学には一年を通して国内、国外から優秀な研究者が間断なく訪れるという恵まれた環境にありますので、CIRJEの客員准教授として彼らと交流を深めるといった機会にも恵まれました。研究室は快適で、優秀なスタッフによるサポートが受けられ、何一つ不自由なく研究を進めることが出来ました。

CIRJE で進めた研究は、大きく言うと、生産性が内生的に決まるような環境において、マクロ経済のパフォーマンスを調べる研究とまとめることが出来ます。まず、経済成長理論と景気循環理論を接合するようなモデルを構築し、そこから得られる知見を理論的、実証的に調べる研究です。複数の論文を平行して進めています。

今回の滞在中には、資産価格バブルと経済成長の関係というテーマで新しいプロジェクトを始めることも出来ました。東京大学の平野智裕氏との共同研究であり、CIRJEでの滞りが、共同研究を円滑に進めるために有意義だったことは言うまでもありません。大変に贅沢な環境で研究を進めることが出来ました。

短期客員研究者紹介

当センターでは各方面からのご寄付・助成金により各国より研究者を招聘しております。今号では、2017年度に公益財団法人野村財団からの助成金により招聘された皆様に、滞在中の活動内容をご報告頂きました。

Department of Economics,
University of Warwick

Mingli Chen
(2017.4.1 - 5.8)



経済学研究科と日本経済国際共同研究センターの皆様には、大変快適な研究環境を用意頂いた事感謝申し上げます。訪問中、計量経済学のセミナーを行い、経済学研究科の皆様には素晴らしいコメントを頂きました。また、学外の計量経済学者による質の高いセミナーにも多数参加しました。その他、複数の変数間での予測と条件付き独立性を特徴づける分位点グラフィカルモデルに関する研究を進めることができました（最終版の論文は経済学のトップジャーナルへ投稿される予定です）。加藤賢悟先生、市村英彦先生との対話も大変有意義なものでした。加藤先生と私は高次元分位点回帰に関する研究、打ち合わせを継続いたします。

Department of Health
Management and Policy,
University of Michigan

Edward C. Norton
(2017.6.15 - 7.5)



飯塚敏晃教授と成果主義に関する研究の為に CIRJE を訪れました。我々は、総費用の削減と医療の質向上に向けて、医療供給者の金銭的な誘因に関する医療経済学の研究を行っています。成果主義プログラムは徐々にアジアで広がりを見せていますが、適切に構成されたプログラムは数える程です。良い成果主義プログラムでは、測定可能な臨床上的結果に影響を与える、医療の質の向上に焦点が当てられています。加えて、その質は供給者によって変わり、測定が可能でなければなりません。さらにその測定は適宜報告され、需要と供給の双方が測定方法に反応し、測定方法のリスク調整がなされることが重要となります。これらの現場での状況が、実際に成果主義を施行する際の課題を作り出します。また、米国での成果主義プログラムに関する研究に関してセミナーを行いました。その論文では、改善のための患者レベルでの金銭的誘因を測定し、その誘因が大きくなった時に、病院のパフォーマンスが対前年比で向上が見られることを明らかにしました。

Department of Economics
and Management, University
of Florence

Alessandro Cigno
(2017.7.2 - 7.17)



フィレンツェ大学の私の学部を訪れて以来の仲である小川光先生より CIRJE 滞在のお招きを頂きました。CIRJE と経済学部の双方で教員の方々と充実した意見交換の機会を得られた非常に素晴らしい滞在でした。また小川先生の共同研究者であった武蔵大学の古村聖准教授や、わざわざ名古屋から訪ねて下さった南山大学の焼田党教授との研究交流も行う事ができました。滞在中、現在刊行済み及び刊行準備中の3つの研究プロジェクトを完成させました。うち2つの研究は、東京大学滞在中にセミナーで発表し、セミナー参加者より洞察に富んだコメントを頂きました。

School of Economics and
Finance, The University of
Hong Kong

Sangyoon Park
(2017.10.30 - 11.3)



Seung-Gyu Sim 先生と経済学研究科、CIRJE 教員の皆様におもてなし頂いたことを厚く感謝申し上げます。滞在中、Sim 先生との、職場でのチームに対するインセンティブと個人に対するインセンティブとが異なるのかどうか、どのように異なるのか、という点に関する共同研究に従事いたしました。さらに、職場でのピア効果に関する進行中の研究を発表する機会を得て、研究科教員の皆様より貴重なご感想やご意見を頂き、CIRJE への滞在は大変有意義なものとなりました。

Desautels Faculty of
Management, McGill University

Jiro Edouard Kondo
(2017.12.1 - 12.8)



滞在中、米国証券仲介市場の自主規制に関する実証的研究についてマイクロ実証分析ワークショップで発表を行いました。とりわけ、特に監察部署が同じ権限と管理下にある時、一つの監察機関の部門について把握することが企業を救済し、また他の監察機関の部門の把握にもなる事の論拠を示しました。また平野先生との資産価格モデルに関する研究にも着手しました。このプロジェクトは、実践者

がキャッシュフロー研究に多くの時間を割いたという逸話的な事実への新解釈を提供する、ノイズが入った合理的期待均衡モデルにおける、会社のキャッシュフロー対会社の割引率に関する投資家調査での均衡差異を説明する Grossman-Stiglitz (1980) の研究に基づいたものです。滞在中多くの研究科教員や学生と実りある交流ができました。東京大学と CIRJE へ訪問の機会を頂いた事を心より感謝いたします。

University of Rouen Normandy

Nathalie Aminian
(2017.12.10 - 12.16)



東京大学での有意義な時間を過ごす機会を下さった福田慎一教授と、経済学研究科の皆様へ感謝申し上げます。滞在中、OBOR イニシアチブ内での中国元の国際化に関する重要なトピックについて研究を進める事ができました。これについてはセミナーで発表も行いました。福田教授や優秀な研究者の方々からの貴重なコメントは、今後の論文改訂に向けた建設的な助言を頂く機会となりました。中国元の将来については依然として不確実性が多く、過去の、特に、日本円の国際化の経験からの教訓に学ぶことが、今後の中国元の国際化の在り方に対して一つの指針となると考えられます。

Mathematics and Statistics
Department, Vassar College

Jingchen (Monika) Hu
(2018.1.9 to 1.23)



CIRJE へ2週間滞在了ました。滞在中、ディリクレ過程とディリクレ過程混合モデルに関する大学院博士課程学生向けの短期講義を開講しました。また模造データによってマイクロデータを開示リスクからの保護することの重要性について「非順序型非入れ子式カテゴリーデータのためのディリクレ過程混合モデル」に関する研究を応用統計ワークショップで発表しました。統計的開示管理に関するワークショップへ参加するため金沢大学に3日間滞在中、「データ機密性のための模造データアプローチ」に関する発表を行いました。加えて、入江先生と私は時系列の模造データに関する共同研究を開始しました。

CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/research/03research02dp_j.html

当センターでは2つのディスカッションペーパーシリーズ（Jシリーズ：日本語、Fシリーズ：外国語）を刊行しており、2017年4月から2018年3月は、Jシリーズ11件、Fシリーズ36件が刊行されました。発行されたディスカッションペーパーは上記のホームページからダウンロードすることも可能です。

客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進があります。国内外の優秀な研究者を様々な分野からお迎えして研究活動を行っております。下記のリストは2014年前期に来訪された客員スタッフの一部です（所属は在籍当時）。

客員教授

- Dov Eliahu Samet (2017.4.25 - 6.4)
Faculty of Management, Tel Aviv University, Israel
- Doowon Lee (2017.10.1 - 11.15)
School of Economics, Yonsei University, Korea
- 工藤教孝 (2017.11.1 - 2018.3.31)
名古屋大学経済学部・経済学研究科, 日本
- Marchus Berliant (2017.4.30 - 5.17)
Department of Economics, Washington University in St. Louis, USA
- Michael Pflüger (2017.5.16 - 5.22, 2017.5.28 - 6.10)
Department of Economics, University of Würzburg, Germany
- Marc Henry (2017.6.19 - 6.23)
Department of Economics, The Pennsylvania State University, USA
- Craig Smith (2017.7.15 - 7.31)
School of Social and Political Sciences, The University of Glasgow, UK
- Bruno Strulovici (2017.7.25 - 7.28)
Department of Economics, Northwestern University, USA
- Kota Saito (2017.7.27 - 8.31)
Division of the Humanities and Social Sciences, California Institute of Technology, USA
- Yi-Ling Cheng (2017.7.31 - 8.5)
Institute of Economics, National Sun Yat-sen University, Taiwan
- Ulrich K. Müller (2017.10.24 - 10.27)
Department of Economics, Princeton University, USA
- In-Koo Cho (2017.12.9 - 12.13)
Department of Economics, University of Illinois, USA

客員准教授

- 陣内了 (2017.4.1 - 9.30)
一橋大学経済研究所, 日本

短期客員研究者

- Mike So (2017.4.4 - 4.24)
Department of Information Systems, Business, Statistics and Operations Management, The Hong Kong University of Science & Technology, Hong Kong

スタッフ

教授



下津克己
(センター長)

青木浩介 市村英彦 高崎善人 田淵隆俊 福田慎一

顧問

- 翁 邦雄 (法政大学大学院政策創造研究科客員教授)
- 加藤淳子 (東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授)
- 清滝信宏 (プリンストン大学経済学部教授)
- 高田 創 (みずほ総合研究所株式会社専務執行役員)
- 西村和雄 (神戸大学社会システムイノベーションセンター特命教授)

運営委員会

運営委員長

下津克己 (センター長)

運営委員

青木浩介・澤田康幸・谷本雅之・福田慎一・渡辺 努

CIRJE Newsletter No.26

2018年4月

東京大学大学院経済学研究科附属

日本経済国際共同研究センター

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

tel +81-3-5841-5644 fax +81-3-5841-8294

<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/indexj.html>